



若草園を支える会 会報

後援会だより

2023年(令和5年)9月8日発行 第55号

事務局：社会福祉法人 栄光会 若草園 内
〒787-0155 高知県四万十市下田2211
Tel (0880)33-0247/Fax 33-0518
ホームページ：<https://wakakusaen.holy.jp/sasaeru>
会長：矢野川 研 編集：瀬戸雅弘



取引口座 ゆうちょ銀行 01610-5-9632 社会福祉法人 栄光会 若草園
幡多信用金庫 下田支店(普) 83497 若草園を支える会 会長 矢野川研

機関紙『わかくさ』第65号を同封しております。



◆新年度会員募集について

2023年度の若草園を支える会の会員を募集いたします。会員には会費や寄付金によってお支えいただく会員と、それらを必要としない賛助会員がございます。

入会していただくと3年間は若草園の機関誌をお届けします。3年が終わる頃には、継続を確認させていただきます。今、この会報が郵送されている方で引き続き賛助会員を希望される方は、特に何もして頂かなくてもかまいません。

幡多地域にある唯一の児童養護施設若草園の認知度は決して高いとは言えません。若草園を支える会は広報活動に力を入れていきたいと思っております。お友達を会員/賛助会員にご紹介くだされば幸いです。



◆2022年度決算役員会報告

8月22日に総会に代わる役員会を開催し、昨年度の事業報告や予算等が承認されました。また役員も新体制になりました。今年度も宜しくお申し上げます。

会の中では、在園児童への支援が十分にできているか等を中心に話し合われました。いっぽうで支援の輪を広げるために、コロナ5類移行したこともあり今年度からPR活動を積極的に再開させることも話し合われました。

<一般会計>

	2021年度繰越	283,904
収	会費	412,000
	寄付金	213,997
入	預金利息	3
	合計	909,904
支	ゆうちょ払込手数料	18,562
	卒園お祝い金1名	30,000
	お年玉24名	100,000
	ホーム活動支援金	169,186
	会報印刷代	43,299
出	役員会案内切手代	3,065
	合計	364,112
今年度の収支		+261,888
差引残高		545,792

<基金会計>

	2021年度繰越	6,953,297
収	支援金還付金	60,000
	預金利息	2
入	合計	60,002
		0
支出	合計	0
	今年度の収支	+60,002
差引残高		7,013,299

<基金資金内訳>

普通預金(幡多信用金庫下田支店) 413,299
定期預金(" 8口) 6,600,000



✉事務局直通メール
wakakusaenjimu
@
dream.ocn.ne.jp

若草園の機関誌
や支える会の会報
をお知り合いの方
にご紹介下さい。

◆おかえりなさい、先輩！！

若草園の子供たちが通っている小中学校では8月29日から、高校では9月1日から、夏休みが終わって2学期が始まりました。夏休みの若草園には多くの卒園生が地元へ帰省して来て、後輩や職員たちに元気な姿を見せてくれ、よろこばせてくれました。

夏休みの終わりに若草園で伝統的に取り組んでいる行事があります。百人一首競技カルタです。平安～鎌倉時代にまとめられた小倉百人一首には700年以上の歴史があります。それが現代の競技カルタの形式で親しまれるようになったのは明治時代に高知県出身の黒岩涙香を中心として競技ルール作りをしたからとされています。ですから若草園で百人一首に取り組むのは地域伝統継承の意味もあります。ちなみに百人一首には土佐日記で有名な紀貫之の歌も収録されています。



▲元小学校教諭の黒田里枝様に頂いたカルタ

人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける

若草園で百人一首が取り組まれるようになった事については、機関紙『わかさ』No. 51の巻頭言に説明されています。

若草園は初代西久子園長の頃から、百人一首を取り組んでおり、年2回夏と冬に大会を行っています。夏は百人一首を園に根付かせた元職員(故)伊豆良子氏のお名前を拝借して「伊豆杯」と名づけ、個人戦にて戦います。一方冬は、「源平合戦」と名づけ、団体戦で戦います。百人一首初体験の子らもいます。和歌の意味も理解できていないでしょう。でも何故か集中して札を取ろうとします。……



▲ 8.22 伊豆杯争奪カルタ大会

その主任保育士だった伊豆さんは1990(H2)年に退職されますが、晩年まで若草園にボランティアとして訪れ、競技カルタの際は詠み手として奉仕してくださいました。伊豆さんは短歌を詠まれる歌人でもあり、機関紙No. 54には作品数首を紹介しております。

伊豆杯のトロフィーには歴代優勝者のペナント(トロフィー用リボン)が結びつけられていますが、その1つに「平成9年度 優勝 浜崎一途」というものがあります。平野ホームの職員として勤めている浜崎さんです。機関紙No. 60「新人職員紹介」によれば、

(2022=R4年)4月より指導員補助として入職した浜崎と申します。遡ること30年前、兄弟3人で本園にお世話になりました。(中略)卒園後は6年間会社員として12年間個人事業主として、5年間四万十市の中学校用務員として過ごし、ご縁あってまた若草園に帰ってくるようになりました(後略)。

と、あります。このペナントは本人が若草園の入所児童だった頃のものでした。

今年から会報の題字は、それまでの既製フォントから路上詩人はまじによる躍動感のある文字に変わりました。はまじの文字は地元の商品デザインなどにも採用されていますが、事務局でお願いして無料で描いていただいたものです。機関紙の西久

子初代園長の題字と共に永く若草園広報誌のシンボルとなるでしょう。

久しぶりに帰ってきた子供たちに会えた事は、皆とてもうれしかったでしょう。お土産のお菓子が色々なところに置かれてあるのもほほえましかったです。そのように、浜崎さんが若草園に帰ってきて伊豆杯の指導をしている事を、天国の伊豆さんはきっと喜んでいるでしょう。若草園にはそんな子供との繋がりがずっと続いていくのだと感じます。皆様もこの若草園との繋がりを、これから

もよろしく願っています。

思い出のトロフィーと
▼「はまじ」こと浜崎さん



伊豆杯

